

## 暖地早期水稻の収穫期早進化技術

## 第2報 中苗の育苗法

坂本真一・梅木佳良・津田安敬・村社久米夫 (宮崎県総合農業試験場)

Shi-ichi SAKAMOTO, Yoshinaga UMEKI, Yasuyuki TSUDA and Kumeo MURAKOSO: Technique for Advancement of the Harvesting Time of Early Transplanting Rice "KOSHIHIKARI" in Warm Region.

## 2. Raising Method of Four-Leaf-Stage Seedlings of Rice Plants

前報で述べたように、早期水稻の熟期早進化を図るためには、稚苗より中苗を利用することが有利である。そこで、コシヒカリを対象にした中苗 (3~4葉) の簡易健育苗技術を確立するために、出葉促進と苗質の向上に重点をおいて検討を行った。

## 1. 試験方法

試験は、1982年から3カ年にわたって、第1表に示す処理要因を組合せた試験区構成によって行った。

第1表 試験区の構成

処理要因	処理内容	試験年次
出芽温度	28℃, 31℃ (播種後・緑化始期まで)	1983 (1984)
N 施用法	箱当たり1.6~2.7g (基肥0.3~0.6g, 残りを3~4回に分施)	1982 1983 (1984)
かん水法	上部(じょうろにより0.5~1l/箱・日) 下部(プールに並べ, 箱下から給水)	1984
イソプロチオラン剤処理	箱当たり4~8g(成分量) (緑化始期処理)	1983 1984
剪葉処理	1.1~2.0葉期 (第1葉葉身基部相当部位から切除)	1982 (1983) (1984)

注) 1. イソプロチオラン剤 (以下、フジワン剤と略記): '83は12%粒剤, '84は40%水和剤を供試

2. ( ) 年次は有望な処理内容のみを組合せた

稚苗中苗兼用育苗箱にすじまきシート (本洲製紙製) を敷き込み、所定の方法によって3月3日±2日に、箱当たり90gを播種。電熱育苗器内で出芽させたあと、無加温の育苗用ビニールハウス内において育苗した。各処理区とも1/2箱~1箱・3反復。

養成苗は、本田での生育を調査するため、機械移植を行い、当場の標準耕種法にもとづいて栽培した。

## 2. 試験結果および考察

育苗期間の気象条件は、平年に比べて、1982年が高温でやや少照、1983年は前半が気温・日照時間ともにほぼ平年並で、後半が高温・少照、1984年はおおむね低温・やや少照に経過した。

調査成績のうち、1984年分の一部を第2表に示した。

各処理要因の効果を中心に、3カ年の試験結果を要約すると次のとおりである。

## 1) 処理要因の単独効果

①出芽温度 28℃区では、31℃区に比べて、初期から

地上部乾物重/苗長比がやや高い傾向を示した。

②N施用法 箱当たり2.4g (稚苗の場合の約2.5倍量) を基肥0.6g, 播種後10日ごとに0.6gずつ3回追肥するのが、苗の形質からみて問題が少なかった。

③かん水法 下部かん水区では、上部かん水区に比べて出葉が若干促進され、地上部乾物重/苗長比がやや高い傾向が認められた。

④フジワン剤処理 苗質向上効果は明らかでなかった。

⑤剪葉処理 苗が徒長傾向を示す場合、2葉期の処理によって、第4葉の出葉が若干促進された。

このように、個々の処理要因の出葉促進・苗質向上効果は、期待したほど大きくはなかった。

## 2) 処理要因の組合せ効果

各処理要因の組合せによって、出葉促進・苗質向上効果が認められた。効果が大きかったのは、出芽温度 (28℃)・N施用法 (基肥0.6g・追肥0.6g 3回)・フジワン剤処理 (緑化始期 8g)・かん水法 (下部かん水) を組合せたものであった。さらに、初期生育が徒長化した場合 (播種後2週目ごろの苗長・10cm以上) には、2葉期の剪葉処理の組合せによって、出葉が促進された。

第2表 苗の形状・成熟期 (1984)

区別	苗長		苗令		地上部乾物重/苗長		成熟期	
	1	2	1	2	1	2		
上部かん水	フジワン・剪葉 4g・有	6.3 cm	12.7 cm	2.2 L	3.3 L	0.90	1.04	月日 8.1
	8g・有	6.7	12.2	2.1	3.4	0.78	1.35	8.1
	0g・有	7.3	11.4	2.1	3.2	0.79	1.28	8.2
	0g・ム	10.3	13.5	2.0	3.2	0.88	1.49	8.2
下部かん水	4g・有	6.0	11.2	2.1	3.4	0.82	1.17	8.1
	8g・有	7.0	11.6	2.1	3.6	0.84	1.38	8.1
	0g・有	6.2	10.0	2.0	3.2	0.81	1.33	8.2
	0g・ム	9.2	12.4	2.0	3.3	0.90	1.60	8.2

注) 1. 28℃出芽, N施用法・0.6g(基)+0.6g×3回(追), 2葉期剪葉  
2. 1:播種後20日目, 2:播種後38日目  
3. 同時期(4月4日)移植の稚苗の成熟期: 8月4日

なお、これら組合せ処理区の苗は、同時期移植の稚苗 (2葉苗) に比べて、成熟期がほぼ3日早くなった。

今後、以上の結果を手がかりにして、さらに苗令の進んだ苗の育苗法を明らかにするとともに、簡易大量育苗技術を確立するための検討を進めることが必要である。